

開館1周年記念式典開かれる



深澤晟雄について語る高橋日出夫氏

10月17日午後1時30分から沢内老人福祉センターで深澤晟雄資料館開館1周年記念式典が開かれました。
式典では、理事長の挨拶の後、高橋繁西和賀町長、久保孝喜県議会議員より祝辞が述べられました。
経過報告の後、高橋日出夫氏が「深澤晟雄さんとふるさとを語る」、若井なおみさんが「いのちの山河を語る」と題して、講演をされました。
高橋日出夫氏は、独自の分析による深澤晟雄の気質気性について述べられました。高い教育知識、大陸での経験、深澤家の気質、権力に盲従しない沢内気質があつた強い指導力を発揮し、偉大な業績を残したと、わかり易く説明してくださいました。



「いのちの山河」のエピソードを語る若井なおみさん

また、若井なおみさんは映画撮影のエピソードや出演された俳優さんたちとの交流などを話されました。特に、あの吹雪の撮影は印象に残ったようです。
エキストラの皆さんの健康を気になさっていました。また、7月の撮影には冬の場面があり、暑い中ストーブを焚き、汗を隠すのが大変だったとのことでした。
質疑応答の後、昭和40年代に湯田・沢内の中学校で教鞭をとられて現在秋田県にお住まいの、外山（旧姓小野）光子さんによる「深澤晟雄を讃える歌」の独唱が披露されました。
式典終了後、沢内バーデンで祝賀会が開かれ、佐々木正裕町議会議長からの祝辞の後、内記正志氏の乾杯で交流を深めました。



「深澤晟雄を讃える歌」を熱唱する外山光子(とやまてるこ)さん

来館者5千人を 超える

深澤晟雄資料館の来館者が10月22日に5千人に達しました。

5千人目は岩手県退職者会の方々の一人でした。

1周年記念には、来館者の推移が報告され、順調にのびており、町内の観光にも貢献していることが評価され、町からの助成も頂く事になりました。

町内の皆さんはもちろん、町外からお客さんがこられた時も、是非お立ち寄り下さる様おすすしめ願います。

深澤晟雄と選挙

「たったひとつの公約」

「私の命は、住民の命を守るためにかけよう」

西和賀町は今町長選挙の真っ最中です。深澤晟雄は一期目は無競争で当選したが、二期目はまれに見る激しい戦いとなりました。
「生まれた赤ん坊がころころと死んでいくような野蛮な条件、また年取ったおじいさんおばあさん方が農夫症に苦しみながらじつと我慢して



36年4月 選挙期間中宣伝カーがはちあわせとなった

「いのちの山河」上映案内

- 11. 5 滋賀県大津市生涯学習センター
 - 11. 7 仙台市民会館
静岡県浜松市雄踏文化センター
三重県総合文化センター
静岡市・サールナートホール
 - 11. 8 鳥取県鹿野町総合福祉センター
 - 11. 14 東京都 新宿武蔵野館
(1カ月間、深澤晟雄展も)
 - 11. 17 盛岡劇場
 - 11. 21 一関 シネプラザ
盛岡 教育会館
 - 11. 27 岩手町 プラザあい
 - 11. 28 花巻市 JAホール
 - 12. 4 盛岡市 教育会館
- その他全国上映中

詳しくは ホームページでご覧下さい。

<http://www.cinema-indies.co.jp/aozora2/schedule.php>

死んでいくような野蛮な条件を克服して、与えられた人間の命が完全に燃焼し尽くまで自分達で自分達の命と健康を守る。そういう村に作り上げて生きたい。私の命は、住民の命を守るためにかけよう。」
産業振興を訴える照井氏といのちを守る保健医療の充実を訴える深澤。
結果は深澤が305票差で勝った。
これにより、第十九代沢内村長に就き、対抗した照井氏の協力も得て、村民の健康だけでなく、所得の向上も果たし、村民の自信や誇りを取り戻した。(以上、及川和男氏著「村長ありき」より引用)
時代が変わり、当時とは事情が違いますが、町民の自信と誇りを取り戻す、きっかけとなってほしいものです。

の出会いから

お客様と

資料館スタッフとお客様との出会いで生まれる感動のドラマ……。

資料館目指して

北海道のお客様。翌日盛岡で会合がある為、花巻空港に着き、その足でレンタカーを借り資料館へ。30分ほど見てすぐ盛岡へ、帰り際「いのちの山河」の上映運動頑張りますと言われ、帰途につかれました。翌々日、その盛岡の会合でその人から資料館へ言ってきた話を聞き、東京に戻るわずかな時間を見つけ、盛岡から資料館を目指して来館された方がありました。時間の許す限りご覧になられ帰途につかれました。

(小西)

深澤晟雄資料館 / 〒029-5614 西和賀町沢内字太田 2-68

TEL&FAX 0197-85-3838
Eメール masao@nisiwaga.net